

飛翔体滞空時間競う

弘大で
競技会

学生ら工夫凝らし

弘前大学大学院理工学研究所附属医用システム創造フロンティア（センター長・小野俊郎教授）主催の「滞空時間競技会」が24日、弘大文京町キャンパスの第2体育館で初めて開かれた。大学生や高校生が形状などに工夫を凝らした無動力の飛翔体を空に放ち、滞空時間の長さを競った。

（山本恵子）

今年4月、同研究科に開設した同フロンティアでは医用機器の研究・開発と人材育成を進めており、今回は学生に自由な発想力と豊かな想像力を養ってもらうと初めて企画。弘大の学生12チーム、弘前工業高校の生徒4チームの合わせて16チームが参加した。

学生らは、体育館に引いた直径3メートルの円から出ないように紙やプラスチックで作ったパ



ラシユート型や長方形などの飛翔体を地上5メートルの高さから落とし、好タイムを狙い、

凝らした無動力の飛翔体を空に放ち、滞空時間の長さを競った競技会

計4回チャレンジし、滞空時間を長くさせるための空気抵抗を考えながらさらなる改良を加え、想像力を磨いた。

小野センター長は「高性能な工作機械はたくさんあるが、学生には簡単な作業を通じて、根本的な考え方を養ってほしい」と話した。

上位入賞の結果は次の通り。

- ▽1位＝チーム「俺がスダンダードだ」（弘前工高）12秒6
- ▽2位＝チーム「安全に!!」（同）12秒5
- ▽3位＝チーム「キャンブライ」（同）12秒3
- ▽アイディア賞＝チーム「ナリナリ」（弘前工高）

※この記事は、陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
[問合せ先]弘前大学理工学研究所
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp